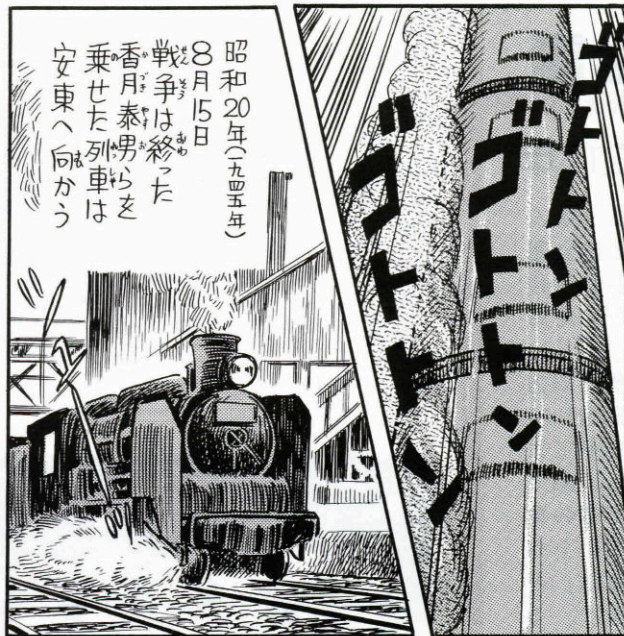


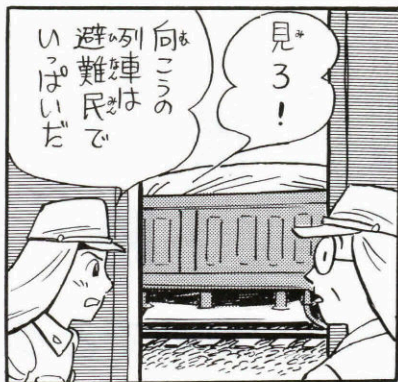
香月泰男

13

次建中六



昭和20年(一九四五年)
8月15日
戦争は終わった
香月泰男らを
乗せた列車は
安東へ向かう



向こうの
列車は
避難民で
いっぱい
だ

見ろ！



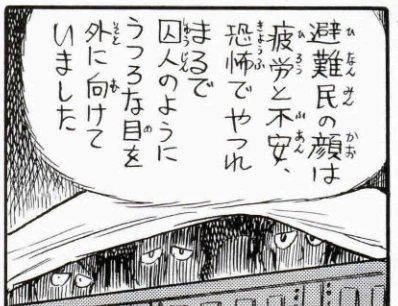
この暑の中
シートを
かぶって
あの中は
蒸し風呂
だぞ

まるで
イワシの
カンヅメ
だな



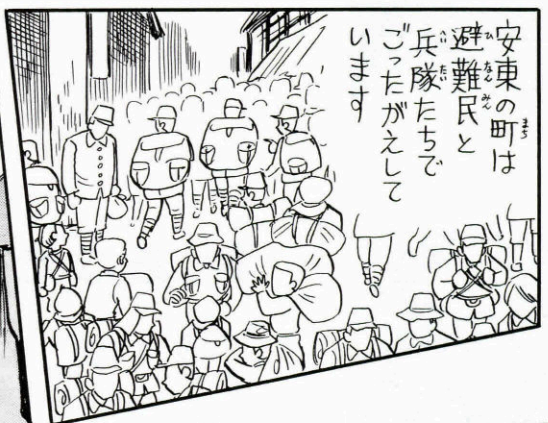
ホホホ
ギギギ
ヤヤヤ
赤ん坊まで
いるのか、

かわい
いことに
……



避難民の顔は
疲労と不安、
恐怖でやつれ
まるで
囚人のように
うつろな目を
外に向けて
いました

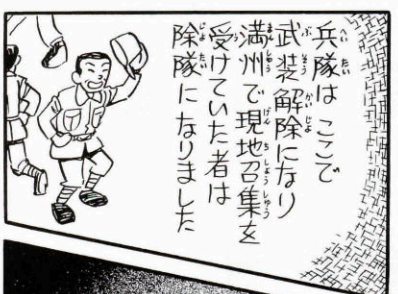
奉天をたって
二日後、列車は
安東へ着きました



安東の町は
避難民と
兵隊たちで
ごったがえして
います



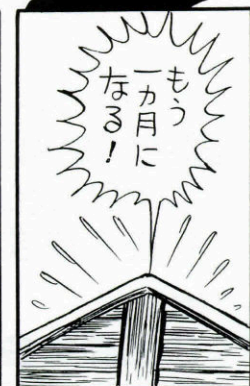
国境は
ソ連軍が
管理して
いて
めったなことでは
国境を越える
許可が
出ません



兵隊はここで
武装解除になり
満州で現地召集を
受けていた者は
除隊になりました



しかし
残りの者は全員
宿舎を
与えられ
とめおかれたので
す



もう
一カ月に
なる！



俺たち
いっまで
ここに
足とめを
くわせられ
るんだ！



冬が
終るまで
しれんぞ

バカな



あむ

もしかしたら
このまま
帰しちゃ
くれんかも
しれん……

気が狂い
とんだ！！